

---

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG通信

2018年No.4 (2018.8)

---

- ・ 第69回全国七大学対校陸上競技大会  
兼第29回全国七大学対校女子陸上競技大会(厚別公園陸上競技場)
    - …男子総合3位、女子総合二連覇！
    - …佐貫(3)が女子100m、400mで二冠、三連覇！
    - …芦田(2)が男子100m、200mで二冠！
    - …田中(1)が女子砲丸投で10m89の部記録を樹立し優勝！
    - …女子4×100mR 泉屋(2)-佐貫(3)-小川(1)-佐々木(4)が三連覇！
    - …中村(4)が女子走高跳で優勝！
    - …加地(2)が男子400mHで優勝！
    - …寺島(2)が男子5000mWで20' 55" 01の部記録を樹立！
    - …青木(1)が女子OP5000mWで25' 15" 73の部記録を樹立！
  - ・ 第73回宮城県陸上競技選手権大会で泉屋(2)が女子100mHで15" 95の部記録を樹立！
  - ・ 第57回秋田県陸上競技選手権大会で佐貫(3)が女子400mで56" 28の部記録を樹立！
  - ・ 第73回大分県国体最終選考会で山崎(1)が女子やり投げで49m16の部記録を樹立！
- 

- ・ 第69回全国七大学対抗陸上競技大会  
兼第29回全国七大学対抗女子陸上競技大会 2～17ページ
- ・ 宮城県陸上競技選手権大会ほか 18ページ
- ・ 七大学女子二連覇祝勝会のご案内 19ページ
- ・ OB・OG戦のお知らせ 20ページ
- ・ 自己記録更新者一覧 20ページ
- ・ 今後の予定 20ページ
- ・ 編集後記 20ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月28~29日に行われました第69回全国七大学陸上競技大会兼第29回全国七大学女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

### ◎第69回全国七大学陸上競技大会兼第29回全国七大学女子陸上競技大会(7/28~29)

・厚別公園陸上競技場(北海道)・

二日間、強い日差しが照りつける厳しい暑さのなかで行われました。男子は昨年より順位を1つ上げて3位、女子は昨年に引き続き、連覇を達成しました。今大会では男子5000mW、女子砲丸投で部記録が樹立されました。また、女子100m・400mで佐貫(3)が二冠、三連覇を、男子100m・200mで芦田(2)が二冠を達成するなど、東北大選手の活躍が目立ちました。主将・女子主将の挨拶と対校戦各選手の様子を紹介します。

#### ・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大学	97点
2位	京都大学	78点
3位	東北大学	66点 (T:35点(4) F:31点(3))
4位	東京大学	61点
5位	名古屋大学	53点
6位	北海道大学	44点
7位	九州大学	21点

#### ・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	東北大学	27点 (T:19点(1) F:8点(1))
2位	東京大学	19点
3位	大阪大学	14点
4位	京都大学	9点
5位	北海道大学	7点
6位	九州大学	3点
7位	名古屋大学	0点

#### ●主将、女子主将より

##### ～主将挨拶～

七大戦が終わりました。部の最大の目標として男女での総合優勝を掲げ、多くの部員が1年間その目標に向かって本気で尽くしてくれました。

しかし結果としては、女子は優勝することができたものの、男子は総合3位となり、目標の達成には至りませんでした。決して甘い見積もりをしていたわけではありませんが、最終的に男子1位の大阪大には大差を付けられての圧勝を許してしまいました。みんなこれだけ頑張ってくれたのに、結果というものは残酷なものだなと思います。悔しいです。

敗因として、試合へのピーキング能力が未熟だった選手が多かったように感じます。全員が自己ベストやシーズンベスト付近の記録を出せていれば大阪大との差も決して埋められないものではなく、「本当はもっと強いのになあ」と思わざるを得ない場面は何度かありました。その点女子はほとんど取りこぼしがなく、実力の高さ自体よりも、実力を遺憾なく発揮できたことが一番の強みになったのではないかと感じます。

ただ、例年言われてきた2番手3番手で得点できる選手層の薄さという問題については全体的に解消されてきたのではないのでしょうか。今までであればエース級だった記録を出

さないと正選手に入れないような種目が増えました。年々レベルが上がり続け、もはや全国レベルの記録を出さないと優勝できない種目がほとんどになってきた七大戦においてでも例年以上の活躍をすることができ、「過去最強の東北大陸上競技部」を常に更新し続けている状況にあることが強く感じられる大会となりました。この部はまだまだこれから強くなります。

来年の七大戦に向けて、現在の4年生が抜ける影響は決して小さくありませんが、それ以上に下級生の活躍も大きく今後の伸びも期待できる選手が多く見受けられました。来年、再来年も今回叶わなかった男女での総合優勝の達成を目指せる状態は続きますので、後輩たちにはぜひ期待して頂きたいです。

最後になりましたが、遠い遠征地にも関わらず当日はOB・OGの方々も多く応援にきて頂き、改めて先輩方の支えも感じられる2日間となりました。今後とも熱いご声援、ご支援のほどよろしくお願い致します。

1年間ありがとうございました。

東北大学学友会陸上競技部 前主将 松田将大

～女子主将挨拶～

今年の七大戦は目指していた女子総合優勝、そして2連覇を達成することが出来ました。本当によかったです。今回の七大戦では、事前に想定していた得点予想と同じ得点をとることが出来ました。これは正選手が自分の実力を試合でしっかり発揮できたことが勝因だと思います。プレッシャーのかかる中、それに負けずにひとつでも上の順位を取りに行く姿勢もよかったです。1年間、「七大戦では記録よりも順位、得点」という意識をもってほしいと言ってきました。その気持ちで全員が戦うことが出来たのが、今回の1番の勝因だと思っています。

今の3年生は実力がかなりあります。また1、2年生もこれからどんどん伸びる可能性を秘めています。これからは新主将の佐貫を中心に、女子部員全員が今年以上の活躍をしてくれることを期待しています。ぜひ3連覇を目指してほしいと思います。

最後になりますが、OB・OGの方には、日頃から手厚いご支援をして頂き、本当にありがとうございました。試合当日も多くの方が北海道まで足を運んで、応援していただき、選手の力となりました。

今後とも部員一同頑張っていきますので、変わらぬ応援のほど、よろしくお願い致します。

東北大学陸上競技部 前女子主将 中村真璃子

女子の優勝は東北大学のWEBサイトにて紹介されました。

## 第57回七大戦で学友会陸上競技部女子が優勝しました

2017年8月1日 16:00 | ニュース

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2018/08/news20180801-01.html>

## ●七大戦各競技を振り返って

### ☆トラック

#### 男子 100m 予選

##### 1組 7着 瀬良将太(4) 11"81(-3.2)

スタートの飛び出しから加速はうまく決まる。体が起きてから動きが小さく二次加速が不十分で、後半40mはピッチが空回し続け7着に終わる。

##### 2組 3着 白鳥海知(4) 11"29(-3.2)

スタートから40m付近までは先頭を走っていたが九州大の追い上げが強く2位になった。ゴール直前、重心が後ろに残り過ぎ空回りしており、トルソー差で東大に競り負け3位でゴールした。

##### 3組 1着 芦田周平(2) 10"99(-2.4)

スタートはゆっくり出る。周りを見ながら徐々にスピードを上げて1着でゴール。

#### 男子 100m 決勝

##### 1位 芦田周平(2) 10"89(-3.0)

スタートは本気で出て、50メートル地点でトップに立つ。その差を保ったまま1着でゴール。

##### 7位 白鳥海知(4) 11"22(-3.0)

スタートの反応は良かった。隣のレーンの京大には勝っていたものの、アウトレーンにいる東大勢と団子状態でのゴールとなった。

#### 女子 100m 予選

##### 1組 1着 佐々木千肅(4) 13"00(-3.9)

スタートは、少し早めに起き上がったしまった。中盤うまく加速に乗ることができ、後半はあまり伸びなかったが、1着でゴールした。

##### 2組 1着 佐貫有彩(3) 12"96(-2.0)

スタートで反応が鈍くやや出遅れる。50m通過地点でトップに立ち、余裕をもって1着でゴール。

#### 女子 100m 決勝

##### 1位 佐貫有彩(3) 12"87(-2.0)

スタートで出遅れ左隣の他大選手2人に

先行される。50m地点は4レーンの東京大学の選手に続いて2番手で通過する。90m付近までなかなか差が縮まらず先行されるが、最後にトルソーの差で辛勝した。

##### 3位 佐々木千肅(4) 13"05(-2.0)

スタートは、早く起き上がり上手くスピードに乗れないまま、後半追い上げるも、届かず3位となった。



▲女子 100m 決勝

#### 男子 200m 予選

##### 1組 1着 芦田周平(2) 21"78(-3.2)

スタートはゆっくり出て、カーブを抜けた時に横のレーンの人を抜けるように走る。そのまま周りを見て1着でゴール。

##### 3組 1着 白鳥海知(4) 22"98(-4.6)

コーナーで外の東大に追いついた。直線に入ってから後は続が来なかったため、あたりを確認しつつ流しながら東大と並んでゴールした。

#### 男子 200m 決勝

##### 1位 芦田周平(2) 21"57(-2.0)

スタートはゆっくり出て、前を見ながら徐々に加速。最後は気力で走り、1着でゴール。

##### 5位 白鳥海知(4) 22"21(-2.0)

前半の伸びが物足りず後続に沈んだ。後半少しづつ伸びてきたが、大きな順位の変動は無く5位でゴールした。



▲男子 200m 決勝

### 男子 400m 予選

1組 3着 八巻隼人(2) 50"87

スタートは反応よく飛び出し、前半から飛ばす。力みの少ない走りで 300m 地点では他大の強い選手を抑えトップに立つ。しかしそこから少しバテてしまい、3 着でゴール。

2組 6着 田口開斗(2) 52"06

4 レーンからスタート。入りの 50m で早くも名古屋大の 3 レーンの選手を捉えるがその後思うようにスピードが伸びずに徐々に失速しながら 4 番手付近で 300m を通過。最後の 100m で更に失速し最後は 6 着でゴール。

3組 6着 岩波発彦(4) 52"91

前半からスピードが上がらず遅れを取ってしまい、後半も巻き返せず 6 着でゴール。

### 男子 400m 決勝

8位 八巻隼人(2) 49"85

予選よりも前半から飛ばしていた。200m の通過も周りに遅れをとらず良い感じに入る。300m 地点を得点圏内で通過するが後半ついていけず、8 着でゴール。

### 女子 400m 予選

1組 1着 佐貫有彩(3) 1'00"51

ゆったりとしたスタート。最初の 100m は 1 つ外側の選手が先行していたが、バックストレートで差を縮め、200m 通過したあたりで先頭に立つ。その後は余裕を持った走りをし、1 着で予選通過した。

2組 2着 小川明音(1) 1'01"51

スタートは動きが遅かったが、バックストレートではうまくスピードに乗れた。300m を 2 位で通過し、そのまま余裕をもってフィニッシュ。

### 女子 400m 決勝

1位 佐貫有彩(3) 57"63

前半は得意のバックストレートで外側の選手との差を縮めていった。内側の選手にコーナーで詰められる。300m 通過地点でトップに立つ。ホームストレートもそのままのスピードでいき、後ろの選手との差を広げて 1 着でゴールした。

6位 小川明音(1) 1'00"41

200 の通過ですでに内側の選手たちに遅れを取る。300m の通過は 4 位だが、その後外側の選手に抜かれ 6 着でゴール。

### 男子 800m 予選

1組 4着 川口航汰(4) 2'04"44

ブレイク後 6 番目に位置取って 200m を通過した。スローペースとなり前と詰まったが、その位置をキープして 66 秒で 400m を通過。500m でレースが動きスピードアップした。600m を 3 番目で通過したが、そのまま順位上げきれずに 4 着でゴールした。

2組 5着 松田将大(4) 1'59"16

ブレイクと同時に飛び出し、2 番手に 5m ほどの差をつけた状態で先頭を引っ張った。ホームストレートでは常時強い向かい風が吹いていたが 1 周目を 54 秒で通過。そのまま 600m も 83 秒台で通過して得意の展開で逃げ切りを図ったが、強風が響いたのか一気にペースが落ちてしまい、すぐに 3 人の選手に抜かされてしまう。ラストは完全に動きが固くなり、最終的に 5 着でフィニッシュした。

3組 6着 佐藤宏夢(4) 1'57"51

9 レーンからのスタート。やや牽制ぎみの中、追い風のバックストレートで 2 番手につけた。そのままやや縦長の集団となり、

400m を 58" で通過。500m まで 2 番手をキープするが、バックストレートストレートの急激な仕掛けからポケットされてしまい、一気に 5 番手まで下がってしまう。その後、カーブで縦長となった分の差を向かい風のホームストレートで詰めることができず、6 着でのゴールとなった。

#### **女子 800m 決勝**

**2 位 上條麻奈(3) 2'16"48**

スタートから先頭に立ち、そのままレースを進めた。残り 150m 付近で後ろに着いていた選手に抜かれ、そのまま 2 着でゴールした。

**6 位 加藤ひより(2) 2'27"68**

ブレイク後、集団の中盤に着き 1 周目を 72 秒で通過。500m 通過後に 1 人をおかわすも、前方との距離は変わらずそのままゴール。

#### **男子 1500m 決勝**

**6 位 荒田啓輔(4) 3'57"82**

**11 位 松浦崇之(3) 4'03"15**

**12 位 松田将大(4) 4'05"26**

スタートから北大の 3 人がペースを速くし、先頭は 1 周目を 60 秒で通過した。松田は 5~7 番手の位置に付く。荒田はスタート時、途中で一度弾かれて中盤やや前くらいの位置につく。松浦は先頭集団について行くことが出来ず、最後尾の方でレースを進めた。先頭は若干ペースが落ち着き、2 分 4 秒程で通過したが、松田はそこから徐々に順位を落としてしまう。荒田はそのままポジションをキープし、800m を通過した段階で松田が先頭集団と離れ始め、前へ出た。ラスト 300 まで来た段階で先頭三人を除いた 4 位集団になっており、そこで飛び出した。ただ、同じタイミングで北大高橋が出てきて、すぐ 6 位に、そのままポジションを上げられず、結果 6 位だった。松浦はその後、先頭のペースは落ちるもそれでもハイペースで、松浦は追いつくことが出来ず、

4'03 で 11 位にゴールした。松田は 1000m を 2 分 37 秒程で通過したが、そこからはペースが持たなくなり、ラスト 1 周でも数人に抜かされて 12 着でフィニッシュ。



#### **▲男子 1500m 決勝**

#### **女子 3000m 決勝**

**3 位 上條麻奈(3) 10'34"91**

**5 位 飯田夏生(4) 10'41"35**

上條、飯田ともに、スタートで飛び出した 2 名の選手にはつかず、第 2 集団後方につく。上條が第 2 集団を引っ張り、飯田はその集団後方から冷静にレースを進める。最初の 1km は 3 分 30 秒で通過。上條はそのままのペースを維持して 4 位、飯田は少し遅れて残り 1km を迎える。上條が落ちてきた選手を抜き 3 位にあがる。飯田も 1 人抜かすが、後方からきた選手に抜かれ 5 位。上條、4 位の選手、飯田と間隔を空けて残り 1 周を通過。上條はそのまま 3 位でフィニッシュ。飯田は得意のスパートで徐々に 4 位との差を縮めるが、1 秒及ばず 5 位でゴールした。



#### **▲女子 3000m 決勝**

### 男子 5000m 決勝

4位 松浦崇之(3) 14'59"04

18位 脇田陽平(3) 16'14"62

21位 三浦慧士(2) 16'48"05

スタート前から急に涼しくなり、小雨混じりのレースとなった。スタート直後は松浦が先頭集団に付き、脇田は中盤、三浦は後方から走り出す形となった。1000m付近で脇田が集団の最後尾に、三浦がその集団から離れ出した。1000mを過ぎてから、松浦は2' 55"程のペースを保っていた先頭集団の3人から離れ、4位集団の先頭を引っ張り、脇田は集団から離れ出し、九州大の3番手と競り合いながらレースを進めた。その後松浦は4000m過ぎまで4位集団を引っ張りながら先頭集団を追いかける展開となり、脇田は集団から落ちてくる選手後方からを拾いながら、三浦は最後尾で単独走をする流れとなった。松浦はラスト700mあたりで北海道大の2番手に飛び出され、4位の位置をいったん譲るも、ラスト400mからスパートをかけ、残り200m付近で追いつき、最後は引き離し、4位でゴールし、3点を獲得した。脇田は徐々に順位を上げながらレースを進め、最後、一旦抜いた選手に抜き返される中、18位でゴールした。三浦は終始最後尾での単独走となる厳しいレース展開となり、21位でゴールとなった。



▲4位入賞した松浦(3)

### 男子 110mH 予選

1組2着 鈴木健大(2) 16"02(-3.0)

向かい風が強く吹くなかでのレースだった。スタートは良く決まり、ほぼ先頭で1台目を越える。前半、ハードルに当たることなく順調に越えていくが、1位、2位との差が開く。しかし、後半もハードルに当たらず安定して走り、再び差を詰め、10台目を越えたあとに一人を抜かし2着でゴールし、着取りで決勝進出。

2組2着 勝井友樹(4) 16"01(-4.0)

スタートから前半にかけてスピードに乗り1位を走るも、後半から向かい風をもろに受け徐々にスピードが落ちる。9台目10台目はなんとか飛んで2位でフィニッシュ。

3組2着 羽根田佑真(3) 15"94 (-2.9)

強い向かい風の中スタート。1台目までの入りは悪くないが、風の影響で走りもハンドリングもバラバラに。8台目までずっと3番手につけるが、9台目でなんとか2番手に追い付き、ゴールまで同時、着差ありの2着で決勝を勝ち取る。

### 男子 110mH 決勝

6位 勝井友樹(4) 15"70 (-2.5)

フライングになるかと思いきや警告で済み事なきを得る。スタートはやや出遅れる。中盤から後半にかけてスピードを落とさずにインターバルを走るも阪大京大に追いつかず、下3つの順位を東北大で埋める悔しい結果となった。

7位 羽根田佑真(3) 15"84(-2.5)

決勝も風は変わらず。予選同様、全体的に悪くはないがいまいちスピードに乗りきれないまま、6,7,8位争い。中盤を越えると6番手と少し差ができ、それを埋めることができないまま無念の7着フィニッシュ。

8位 鈴木健大(2) 15"85(-2.5)

予選同様、向かい風が強い。スタートは一度やり直され2回目でスタート。無難だが、悪くないスタートで、1台目も浮くことなく、良い入り。前半、浮かずにスムーズなハンドリングと走り。8台目以降、疲労か力みか

インターバルランが乱れ、ハードリングも浮き気味になり、そのまま8着でゴール。対校得点とはならなかった。

### 男子 400mH 予選

#### 1組1着 加地拓弥(2) 54"84

バックで追い、ホームで向かいとなる強い風が吹いている中でのレースだった。強い追い風と自身の調子の良さが相まって、2台目、3台目と細かく刻むことを余儀なくされ、前半の加速は十分ではなかった。しかし、4台目～6台目は風に押され、ゆったりとしたフォームでかつ良いスピードで終盤に入っていく。8台目を超えた時点で向かい風が強くなり、既に周りと大きく差を付けていたため、この後の決勝とマイルに備えて17歩で流して1着でフィニッシュした。

#### 2組3着 井戸端佑樹(2) 57"42

身体の状態は良かったが、向かい風の影響か最初からハードリングがちぐはぐな状態でいつもほど前半攻めた走りができていなかった。後半もスピードに乗り切れないままホームストレートへ。ここでも向かい風に翻弄され失速し組3着でゴール。

#### 3組5着 二ノ神遼(1) 58"28

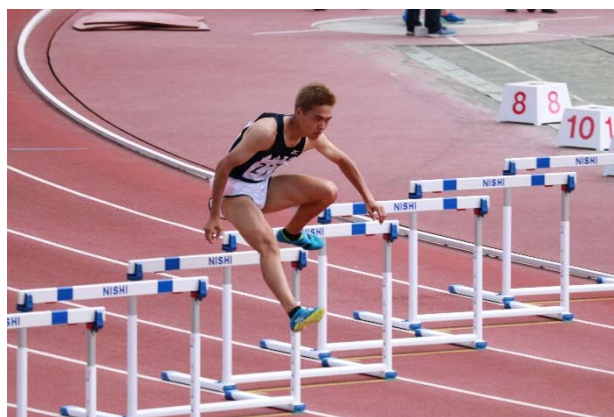
1台目で1レーン外の選手に並ぶとバックストレートの強い追い風を受けてスピードに乗る。しかし200mを過ぎてから徐々に疲れが見え、8台目では歩数の切り替えが上手くできずハードリングが完全に浮いてしまい失速。ラストも粘ることができず、58.28のUBではあったが組最下位。

### 男子 400mH 決勝

#### 1位 加地拓弥(2) 53"92

予選と同じ風向であったが風速がやや上がっていた。それでも落ち着いて1台目から3台目を刻んでいき、5台目まで追い風を味方につけ、伸び伸びとした走りハードリングでトップに躍り出る。第3コーナーからさらにギアを上げ、6、7台目を横風に負けない安定したハードリングで2位以下との

差を広げていく。しかし、8台目を跳ぶ瞬間に強い向かい風が壁のように体を打ち付け、体勢を崩してしまう。それでも9台目、10台目を16歩で踏ん張り、2位と1秒差近くつける53.92で優勝。昨年の決勝最下位の雪辱を果たした。



▲ハードルを跳ぶ加地(2)

### 男子 3000mSC 決勝

12位 木村 秀(2) 9'54"67

13位 荒田啓輔(4) 9'56"33

18位 田沼 怜(2) 10'07"31

スタート後、荒田は6位前後の位置で木村は先頭から10mほど離れた集団の中ほどで、田沼は集団のペースが速いと判断し最後尾でレースを進める。荒田は1000mを3'05のハイペース、続く1000mから2000mを落ちはしたが3'15で通過した。木村は2周目で、得点圏内からはやや遅れて1000mを3'08"で通過。1000m～2000mは3'21"で通過した。前を追いつつもなかなか差が縮まらない。荒田は2000mから大きくペースダウンし順位を下げてしまう。木村は、2000mから大きくペースを崩さずに残り2周に入ると、前の集団から離れた選手を1人ずつ捉える。最後の水濠で他大の選手と接触のアクシデントもあったが動揺せずに12位でレースを終える。スパート勝負で1つ順位を落としているので、そこが今後の課題の1つと言えるだろう。荒田はラスト1000mが3'35かかり、13位でフィニッシュした。田沼はなかなか前の選手が落ちず、



単独で走る展開が続く。2000m 過ぎで、3人をおろして越し、18着でゴール。前半のペース及び、基本の走力不足が浮き彫りとなってしまった。

#### **男子 5000mW 決勝**

2位 寺島智春(2) 20'55"01 部記録  
7位 泉 健太(1) 21'55"96  
13位 及川一真(4) 24'21"53

夕刻にもかかわらず照り返しがきつくなった厳しい暑さの中、対校選手17名でスタート。縦長の先頭集団が多数で形成されていたが、1000m を通過後寺島が仕掛けた。この時点で単独トップになるもラスト勝負に備えて自重し、3000付近で再び集団に吸収された。泉、及川は徐々に6名の先頭集団から離れた。膠着状態が続いた先頭集団は残り1000m をきったところで名大・鈴木が仕掛けばらけた。それに少し遅れた寺島は4位で残り1周に入るも、キレのあるスパートを見せ2位でゴールした。最後まで必死に前を追った泉は、得点圏に一步及ばず7位だったが、1年生ながら健闘した。及川も酷暑の中、最後まで粘り強い歩きで13位と奮闘した。



▲先頭を歩く寺島(2)

#### **男子 4×100mR 決勝**

7位 42"77  
白鳥(4)-芦田(2)-瀬良(4)-上村(1)

1走の白鳥はスタートを反応良く出る。7レーンの九州大学に追いつく勢いで良い走りをして、大きなミスなく2走の芦田へ。

芦田は大きな走りで九州大学を抜かし、この時点でトップに並ぶ。

3走の瀬良はピッチを活かして前半良い走りをするが、後半強い向かい風の影響を受けてしまい失速する。その失速が影響したか、4走の上村にうまくバトンが渡らず落としてしまう。しかし、上村は最後まで諦めることなく、7着でゴール。

#### **女子 4×100mR 決勝**

1位 50"04  
泉屋(2)-佐貫(3)-小川(1)-佐々木(4)

1走は泉屋、9レーンと一番外のレーンであったが思い切りの良いスタートで内側の選手と差を広げていく。ややつまり気味で次にバトンパス。

2走の佐貫は少し疲れを感じさせたが安定した走りで次に繋ぐ。2-3もやや並走気味でバトンパス。

3走は小川、1年生ながらストライドを生かした大きな走りをして、内側の選手と差を広げる。5レーンの阪大とほぼ同時ぐらいにバトンを持って来るが、バトンパスで少し手間取り阪大に先行される展開となる。

4走の佐々木は落ち着いた走りを見せ、残り50mほどで前の阪大を捉える。そのまま阪大を突き放し、1位でゴール。

#### **男子 4×400mR 決勝**

2位 3'15"94  
白鳥(4)-八巻(2)-羽根田(3)-加地(2)

1走は白鳥。100m と 200m を二本ずつ走っているのにも関わらず、全く疲れを見せない走り。バックストレートで一つ外側のチームを抜かすと、勢い止まぬままホームへ。その後もペースが落ちることはなく2番目でバトンパス。

2走は八巻。個人の400mで49秒台の自己ベストを更新した勢いにのり、前半は後続に詰められるも、ラスト100mで引き離し、さらに前とも差を縮める。

3走は羽根田。最初の100mで先頭に追

い付くと、バックストレート入ってすぐに先頭にたつ攻めの姿勢。徐々に2位との差が広がったが、余力を残していた2位の選手にラスト50m付近で抜かされ2番目でアンカーへ。

4走は加地。バトンパスミスで少し先頭との差が離れるも、前半から果敢に攻め、ぴったり後ろにつく。しかしラストの直線に入ってもつかず離れずの状態が続き、無念の2位フィニッシュ。



▲先頭を追う八巻(2)

## ☆フィールド

### 男子 走高跳 決勝

2位 山下一也(4) 2m04

1m95から試技を開始。1回目はピークが手前、2回目は曲走でつまずき失敗。3回目は助走のスピードを落とし確実にクリア。1m98、2m01、2m04は助走も安定しており、いずれも1回目でクリア。2m07の1、2回目は高さは出ていたもののピークが手前であったためにバーに触れ失敗。3回目は踏切一歩前で重心が上がってしまい踏切で力を伝えられず失敗した。最近の跳躍はバーに対して体の浮きのピークが手前に来てしまう跳躍が目立つ。今後は今の跳躍でピークの方だけ踏切をバーに近づけるか、踏切自体を改善するか、いずれにせよ改善が必要となる。

12位 渡辺智輝(3) 1m75

1m75からスタート。終始助走が不安定であった。1m75の1本目は助走が詰まり気味

でスピードを活かせず踏切だけで越えた跳躍となってしまったが、1本目でクリア。1m80の1本目は曲走の助走スピードを上げすぎたことで踏切が潰れてしまい失敗。1m80の2、3本目は助走は適正であったが、踏切で体が一直線にできず、体が上がりきらず失敗。

### 高橋潤(2) NM

公式練習(1m75)をきれいに越えたが、助走が詰まり気味だった。そこで足長を1足長ほど長くしたが、試合が始まるとさらに走れたことで再び詰まり気味になり、体が上がりきる前にバーを落とした。そこから冷静さを欠いてしまい、修正することができないまま最初の高さ(1m75)をクリアできず、NMに終わってしまった。調子は良さそうであっただけに、助走の調整をし切れなかったことが悔やまれる。

### 女子 走高跳 決勝

1位 中村真璃子(4) 1m65

1m50からスタート。1m50、1m53、1m56、1m59は1回目でクリア。1m59はバーに若干触れたが、クリアした。1m62は1、2回目は内傾の途中で重心が上がり、体が上がらず、失敗。3回目は落ち着いて助走し、内傾をしっかりと蹴って走れ、クリア。1m65は1m62の3回目と同じように助走を走り、より深く内傾がかけられて1回目でクリア。次の1m68は競技時間が長く、また本数もこなしていたため、集中力が切れてしまい、3回とも失敗し、自己ベスト更新を逃した。



▲優勝した中村(4)の跳躍

## 男子 棒高跳 決勝

### 2位 高橋昇之(4) 4m40

4m40からスタート。この地点で残っていた他大の選手は東大の選手のみであった。東大の選手は4m70からスタートするため試技は一人であった。棒高跳の試技が始まる前に競技が始まっていた走幅跳を2本跳んでいた。1本目でクリア。2位以上が確定したので、これ以降はパスし、走幅跳に集中するため競技をやめた。

### 3位 藤井大輝(4) 4m30

練習跳躍の時間が走幅跳の足合わせの時間とかぶったため、イマイチ集中しきれていない様子が見られた。4m10からスタート。2回目でクリアし走幅跳1本目の試技へ向かった。戻ってきて4m20をクリアし再び走幅跳2本目に。4m30は2回目でクリアし3位が確定したので走幅跳3本目に。終始幅ピットと棒ピットを行き来する形になったため棒高跳だけに集中するのは難しかったと思われるが、3位表彰台を見事勝ち取った。

### 7位 赤星栄治(2) 4m00

3m80から試技開始。1回目は風に煽られ突っ込めず失敗。2回目でクリア。3m90はうまく頂点が合わず1、2回目を失敗。3回目で成功。その後4m00を1本目で成功。4m10は3回とも高さはあったもののターンがうまくいかず失敗。今年度は助走の安定性に欠け、空中動作に結びつかない跳躍が多く見られる。空中動作へ行くための前提条件をしっかりと改善する必要がある。



▲表彰台に乗る高橋(左、4)と藤井(右、4)

## 男子 走幅跳 決勝

### 6位 高橋昇之(4) 7m03(+3.1)

棒高跳と競技時間がかぶり、集中しきれない状況だった。ホームとバックを往復しながらの競技であった。1本目で7m03の記録を出し、ベスト8進出はほぼ決まっていた。北医体のあとから踏切板との距離感が噛み合っていないように見えたが、当日も踏切板に乗らない跳躍があり、安定感に欠けた。6本目を残して、順位は8位。6位までが7m03で、セカンド記録で負けていたが、6本目で踏切板に乗らなかったものの7m01を記録した。セカンド記録で6位まであがり1点をもぎ取った。

### 12位 諸田直樹(1) 6m70(+2.4)

1本目は間延びして高さが出なかった。2本目は跳躍自体は7mを超えていたもののファール。原因としては一本目の間延びを考慮して助走を30cm縮めたこと、追い風が強まったことが考えられる。3本目は助走を20cm伸ばしたが、再び風で助走が乱れてしまった。怪我のため、1ヶ月ぶりの跳躍が七大会となってしまう、練習不足が顕著に表れてしまった。

### 17位 藤井大輝(4) 6m54(+2.6)

足合わせの時間が棒高跳の試技練習と被り、1本のみしか足合わせができなかった。本番は足が合ったので問題はなかったが棒高跳のピットと行き来する中で満足のいく跳躍ができることなく試技を終えてしまった。この状況を想定したイメトレは重ねていたそうだが、今までのどの大会よりも時間的にプレッシャーのある試合であっただろう。そんな中でも自分の跳躍をする能力を身につける必要があるだろう。

## 女子 走幅跳 決勝

### 8位 佐久間美帆(2) 4m54(+3.0)

風が強かったため、助走を40cmほど下げて跳躍を開始した。助走では本数を重ねるにつれて動きが小さくなって行くようにみ

えた。そのため、1本目から最後の一步がオーバーストライドであったのにもかかわらずそれがだんだん顕著になるようになった。1本目で4m47cmを跳びこの記録でベスト8に残り4本目の跳躍に入る。助走での動きが小さくなるアドバイスを受け、助走を改善するもオーバーストライドは直らなかった。また、6本全てを通して着地動作ができておらず、砂場に突き刺さるような着地動作になった。今後は、最後の二歩のリズムの改善と着地動作の練習が求められる。

#### 10位 峯村遥香(1) 3m76(+4.4)

13歩助走のうち5歩を大きく、次の5歩で加速を意識、3歩できざんで踏切という流れが本番で出来ていなかった。最後の3歩の間延びを直すことを意識したが改善できず。その結果沈み込みもできておらず踏切がつぶれてしまった。走幅跳に限らず、動きを修正したら恒常的にできるようになることが必要である。

#### **男子 三段跳 決勝**

#### 10位 佐藤大斗(1) 13m66(+2.4)

1本目はステップに入る時に踏切足を垂直に下ろすことを意識した。潰れはしなかったが、置きにいった感じがあった。2本目は1本目よりスピードを上げた。ステップでしっかりと地面を搔けたのでジャンプにうまく繋がられた。3本目はホップを高く跳んでしまったためステップで潰れ気味になっていた。追い風も吹いていたので記録は伸びたが、スピードで無理矢理まとめた感じがあった。以前からの課題であった技術に関しては改善されていた。今後は走力を上げて助走スピードを速くするとともに、その速さに跳躍動作が追いつけるよう練習を積み重ねてほしい。

#### 13位 大坂天心(1) 13m45(+1.4)

1本目はホップが低くステップのタイミングがずれていた。上半身のブロックが足りなかった。その後の跳躍はバランスが崩

れていたためコメントはない。2本目はホップを高めにした。1本目の感覚が残っていたのかステップの接地が早かった。意気込んで力が入ったことも原因だろう。その結果1本目より潰れていた。3本目はステップのタイミングを修正した。意識がタイミングに集中してしまい、搔く動作、接地の長さを全く意識できていなかった。ステップでブレーキがかかって少し高さが出た跳躍だった。ジャンプは減速のため距離があまり伸びていなかった。今シーズンの大会は1本目で大きく崩れて修正が間に合わない事が多々見られる。いかに本番に近い練習が出来るかが今後の課題だ。

#### 18位 須郷大地(2) 12m94(+1.1)

##### 1本目12m66

ステップに入ろうとするタイミングが遅く、ステップが潰れてしまった。

##### 2本目12m69

1本目からステップのタイミングを修正しようとした結果、ステップの接地が長くなり、前傾してしまっただけのため、ジャンプで距離が全く伸ばせなかった。

##### 3本目12m94

3本の中では1番バランスのとれた跳躍になったが、助走スピードが遅かったため、距離を思うように伸ばせなかった。

それぞれの跳躍で課題点がバラバラであり、跳躍の不安定さが目立っていた。まずは跳躍の安定のために、ある程度の跳躍を繰り返せるよう練習する必要がある。

#### **男子 砲丸投 決勝**

#### 2位 楠哲也(4) 12m53

3回までの試技で12m40で2位で4投目に進んだ。4投目、5投目に記録を伸ばしていたが最終的に2位となった。

#### 5位 大野誠尚(1) 11m59

1投目から記録を出すつもりでいたがファールをしないように落ち着いて投げた。記録は11m07。2投目以降はファールをする

のを恐れずに思い切ってなげた。2投目は11m20くらい。3投目は軸足がグライド中に巻くことができず伸びてしまい11m00。なんとか予選は6位で通過。4投目以降は声援もあって楽しく投げれたのを覚えている。4投目はこの日で一番体重を乗せて投げることができた。記録は11m40くらい。5投目は体の開きが早く、11m20くらい。6投目は一番グライドのスピードが出て安定した投げができた。記録は11m59で最終的に5位。総括すると、今大会では安定して11m以上を投げれた。しかし、まだ重さに負けてしまい思った通りの投げができていないこともあり、12mを超えることができていない。これからの課題としては、下半身の筋力の強化と足の使い方を意識して練習していきたいと考えている。

#### 17位 佐々木玲 8m16

練習投擲で体の横の動きが強かったので修正することを心がけた。1投目はうまくいって練習ベストくらいの記録を出すことができたが2, 3投目は投げが崩れてしまった。

### 女子 砲丸投 決勝

#### 1位 田中紀香(1) 10m89 部記録

七大戦2日目の朝9時より試合が開始された。申請記録は10m71で1位であった。1投目、10m89。頭の高さを変えずにグライドすることを意識した。右足が着いてからの切り替えがスピーディで投げがよくまとまっていた。2投目、ファール。1投目に加えてグライドの速度を上げようと意識した。溜めが少なくなり右側に逸れ、ファールになった。3投目、10m前。砲丸をまっすぐに引いて来る動きがブレてしまった。4投目、10m84。体を残すイメージを大事にした。押し始めるのが若干遅く、力を加える時間が短くなってしまった。5投目、10m前半。目印を置きイメージを作ろうとしたら、たまたま審判が目印前に立ってしまい動きが雑になってしまった。6投目、10m半。砲丸

の運びは悪くなかったが、力んでしまい、押しの長さが減った。動きのイメージや体の調子はうまく作れていたが試合を思うように進められなかった。もう少し綿密にアップから試合が終わるまでの戦略を練ってから行くべきだったと思った。何とか点数は取れたが、試合運びに雑さが出ていたので今後に向けて対策を立てていきたい。投げに関しては、後は根本的なバネ、筋力不足の問題になってきたと思う。フォームを見直しつつ、下半身や体幹の強化をしていきたい。

#### 6位 山崎香織(1) 9m43

1投目はまず8m75と記録を残し、2投目ではファールとなったものの9mを超える投げとなった。3投目は力んだ投げとなったが、4投目でこの日ベストとなる9m43をマーク。予選から1つ順位を上げ6位となった。



▲部記録を更新した田中(1)

### 男子 円盤投 決勝

#### 2位 楠哲也(4) 38m20

1投目から2位となり順位の変動はなかった。3投目にこの日のベストの38m20を投げた。

#### 16位 大野誠尚(1) 28m22

砲丸投げの決勝が終わった15分後に召集が始まり、熱中症のような症状が出ていた。頭がぼーっとして正直なところ、競技中は投げ終えることしか考えることができなかった。一日に2種目ある際はその次の種目のためにも体調管理をすることを意識す

べきであったと思う。普段の練習からの課題であった、軸を崩さずに投げることができていなかった。やはり、遠心力に負けてしまっていた。体幹を鍛えるとともに動きづくりで少しでも安定して投げられるように意識していきたい。

#### **18位 嘉津山拓登(2) 26m14**

練習投擲ではベストに近い投げであったが、3投全てにおいてファーストターンの入りが速すぎたために体が開き、投げがうまくまとまらなかった。

#### **男子 ハンマー投 決勝**

#### **5位 野尻英史(4) 38m95**

男子三段跳と同時刻に、七大戦最初の対抗種目として競技が開始されたハンマー投。申請記録では5位と得点が期待された。1投目は39m04と39m台を記録し、決勝圏内をほぼ確実にした。記録を残すことが重要な1投目の投擲としてはほぼ完ぺきな結果だった。2投目は最終3ターン目でフィニッシュのタイミングが合わず、フェールとなった。3投目はスピードに乗るも角度が付かず、1投目の記録を越すことができなかった。暫定5位として迎えた決勝。結果を伸ばすことが期待されたが、予選の3回の試技ほどのスピードを出すことができず、結果を更新することは叶わず、順位はそのままの5位となった。1投目の記録が良かっただけに、申請記録以上の結果を出すことができなかったことが悔やまれるが、順位通りの2点を守り、東北大学に得点をもたらした。

#### **宮本貴広 NM**

今までの大会とは異なり記録を出すことに精一杯になった。1投目は1ターンで置きに行こうとしたのにも関わらずフェールしてしまった。2,3投目は全力で投げようとしすぎて体が前に突っ込みすぎてサークルから出てしまった。次回の試合までターンを練習しこのような結果にはならないよう心がけたい。

#### **男子 やり投 決勝**

#### **2位 楠哲也(4) 54m99**

1投目の52m99で5位で4投目に進んだ。4投目に54m99を投げた。最終的な結果は5等であった。

#### **9位 新出悠介(3) 49m75**

申請記録8位で七大戦に臨んだ。練習投擲の感覚は良かったものの、3投すべて力んでしまい、やりが吹き上がる軌道を描いてしまった。向かい風が特に強かったのでいつもより低く強い投げをするべきだったが、修正できずに3投を終えてしまった。技術力と気持ちをコントロールする力が足りないと感じた。

#### **11位 鶴孝太郎(1) 47m46**

1投目がその日ベストの47.46。しかし、初めての七大戦で緊張があったからか、肘が下がり、上半身がガチガチになっていて満足のいく投擲ではなかった。その点を意識しての2投目だったが、今度は思いっきり力んだ結果、やりに力が伝わりきらなかった。3投目は反省を生かしてリラックスしようと試みたが、後から振り返るとやはりガチガチになっていた。今回は絶対PBが出せると思っていた。それに向けての調整もして来たが、逆にそれを意識しすぎたのかもしれない。50mという数字を頭で考えすぎた。



**▲2位入賞した楠(4)**

### ◎応援に来てくださった先輩方(敬称略)

藤田文夫、柴田清、島田哲夫、遠藤久則、真山隆徳、大原綾、深作昌士、吉田真人、千葉雄二、田附遼太、岡部大輝、酒井利晃、本間大輔、田中直樹、大野慎也、榊原真璃子、高橋慧伍、青木千景、卜部仁美、熊谷駿、工藤航平、小幡卓哉、櫻井直輝、佐藤弘隆、佐藤文哉、田中翔悟、本田雄生、箕輪純尚、山田千夏、吉田歩、渡邊朝美、李潔如、内山智尋、大塚睦美、大塚祐貴、佐藤勝成、千葉智史、津嶋優希、藤井佳祐、森渉、森野太介、吉村梢

今年も多くのOB・OGの方々が応援に来て下さいました。全員のお名前を把握しきれず、掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら申し訳ありません。また、たくさんの差し入れを頂き、多くの部員が助けられました。二日間、本当にありがとうございました。



▲集合写真

日付	種目名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
7月29日	男子100m 風-3.0	芦田 周平(2) 東北大	10.89 平松 力(3) 大阪大	10.97 井上 昂(2) 東京大	11.04 本司 澄空(4) 九州大	11.10 阿久津 大貴(3) 東京大	11.18 村井 輝(3) 東京大	11.22 白鳥 海知(4) 東北大	11.36 安藤 湧一(4) 京都大
7月29日	男子200m 風-2.0	芦田 周平(2) 東北大	21.57 平松 力(3) 大阪大	21.90 本司 澄空(4) 東京大	22.05 聲高 健吾(2) 九州大	22.13 白鳥 海知(4) 東北大	22.21 井上 昂(2) 東京大	22.31 新海 涼司(3) 名古屋大	22.69 安藤 貴堯(2) 北海道大
7月29日	男子400m	浅井 良(2) 京都大	48.44 小谷 哲(3) 京都大	48.62 志賀 颯(2) 大阪大	49.03 長 奎吾(2) 大阪大	49.06 蔵 啓太(1) 名古屋大	49.32 小原 幹太(3) 京都大	49.57 寺前 凌(3) 大阪大	49.85 八巻 隼人(2) 東北大
7月29日	男子800m	木村 佑(2) 京都大	1:59.84 高橋 佑輔(1) 北海道大	2:00.05 小畑 皓恭(4) 北海道大	2:00.73 安部 光騎(4) 大阪大	2:01.00 岩井 宏樹(4) 名古屋大	2:01.43 坂口 諒(4) 東京大	2:01.49 土屋 維智彦(3) 京都大	2:07.42 二見 泰樹(4) 京都大
7月28日	男子1500m	近藤 秀一(4) 東京大	3:51.51 酒井 洋明(3) 北海道大	3:52.21 高橋 佑輔(1) 北海道大	3:54.83 金網 航平(3) 北海道大	3:56.43 清原 陸(2) 京都大	3:56.68 荒田 啓輔(4) 東北大	3:57.82 奥田 健太(3) 東北大	3:58.59 塚本 亮司(3) 名古屋大
7月29日	男子5000m	近藤 秀一(4) 東京大	14:43.11 酒井 洋明(3) 北海道大	14:44.72 辻川 諒(2) 九州大	14:53.47 松浦 崇之(3) 東北大	14:59.04 竹鼻 大貴(4) 北海道大	15:00.03 原田 麟太郎(3) 京都大	15:05.84 勝田 哲史(2) 名古屋大	15:20.64 阿部 飛雄馬(2) 京都大
7月29日	男子110mH 風-2.5	小野 貴裕(3) 京都大	15.28 釜谷 智貴(4) 大阪大	15.48 福島 理(4) 京都大	15.60[591] 仙石 樹(3) 大阪大	15.60[594] 大塚 隆真(1) 大阪大	15.67 勝井 友樹(4) 東北大	15.70 羽根田 佑真(3) 東北大	15.85 鈴木 健大(2) 東北大
7月29日	男子400mH	加地 拓弥(2) 東北大	53.92 小西 祐輝(4) 大阪大	54.87 福見 英和(4) 名古屋大	55.30 奥村 知央(2) 京都大	55.53 長谷川 隼(2) 京都大	56.41 平田 泰行(4) 大阪大	56.61 田里 康介(4) 大阪大	57.19 五十嵐 陸皓(4) 京都大
7月29日	男子3000mSC	櫻山 直生(3) 東京大	9:17.57 阿部 飛雄馬(3) 東京大	9:24.59 塚本 亮司(3) 名古屋大	9:26.16 奥田 健太(3) 大阪大	9:28.72 川瀬 育夢(2) 北海道大	9:33.08 栗山 一輝(3) 東京大	9:36.63 森川 陽之(1) 名古屋大	9:44.22 足立 舜(1) 京都大
7月29日	男子5000mW	鈴木 智大(1) 名古屋大	20:51.16 後藤 潤平(3) 東北大	20:55.01 寺島 智春(2) 東京大	20:57.89 高野 圭太(4) 京都大	21:03.11 古川 誠也(3) 大阪大	21:20.03 渡邊 遊(1) 大阪大	21:29.75 泉 健太(1) 東北大	21:59.98 亀田 孝太郎(3) 京都大
7月28日	男子4×100mR	東京大学 小嶋 健太郎(4) 阿久津 大貴(3) 井上 昂(2) 村井 輝(3)	41.21 大阪大学 澤田 隆成(3) 平松 力(3) 加地 涼太郎(4) 長 奎吾(2)	41.42 名古屋大学 角屋 喜基(4) 新海 涼司(3) 後藤 直哉(1) 伊ヶ崎 一哉(2)	41.72 北海道大学 堀田 優斗(4) 安藤 貴堯(2) 渡部 慶彦(4) 白石 直之(3)	41.98 九州大学 林 洋志(4) 本司 澄空(4) 島 聡明(2) 山本 陵(2)	42.00 京都大学 小野 貴裕(3) 加藤 寿昂(2) 岡本 和也(4) 安藤 湧一(4)	42.19 東北大 白鳥 海知(4) 芦田 周平(2) 瀬良 将太(4) 上村 昶之(1)	42.77 京都大
7月29日	男子4×400mR	京都大学 小谷 哲(3) 水野 廉也(3) 小原 幹太(3) 浅井 良(2)	3:15.70 東北大 白鳥 海知(4) 八巻 隼人(2) 羽根田 佑真(3) 加地 拓弥(2)	3:15.94 大阪大学 長 奎吾(2) 長谷部 豪(3) 岩松 尚社(4) 志賀 颯(2)	3:18.89 東京大 小嶋 健太郎(4) 岩崎 誠倫(2) 坂口 諒(4) 伊藤 康裕(3)	3:20.24 名古屋大学 福見 英和(4) 蔵 啓太(1) 伊ヶ崎 一哉(2) 森 信人(3)	3:22.00 北海道大学 福見 英和(4) 蔵 啓太(1) 山本 誉(3) 小畑 皓恭(4)	3:22.43 九州大学 白石 将(3) 渡部 慶彦(4) 山本 陵(2) 川上 高輝(2)	3:22.68 京都大
	トラック対抗得点	大阪大 59点	京都大 44点	東京大 43点	東北大 35点	北海道大 34点	名古屋大 24点	九州大 13点	
7月29日	男子走高跳	木村 友哉(2) 大阪大	2m07 山下 一也(4) 東北大	2m04 坂口 裕飛(1) 京都大	2m04 羽田 充宏(2) 大阪大	2m01 木下 秀明(4) 大阪大	1m98 北嶋 諒太郎(3) 九州大	1m98 大賀 春輝(4) 大阪大	1m95 幾田 勇希(3) 名古屋大
7月29日	男子棒高跳	三宅 功朗(3) 東京大	4m90 高橋 昇之(4) 東北大	4m40 藤井 大輝(4) 東北大	4m30 俣野 優介(1) 名古屋大	4m20 増尾 浩旗(2) 京都大	4m10 平島 敬也(3) 京都大	4m00 赤星 栄治(2) 東北大	3m80 大曲 和輝(3) 大阪大
7月29日	男子走幅跳	中谷 豪汰(4) 大阪大	7m51(+2.0) 角屋 喜基(4) 名古屋大	w7m44(+3.5) 伊藤 裕也(4) 名古屋大	w7m30(+2.7) 本居 和弘(3) 京都大	w7m17(+4.7) 堀田 優斗(3) 京都大	w7m11(+2.4) 高橋 昇之(4) 東北大	w7m03(+3.1) 木下 将一(2) 大阪大	w7m03(+2.6) 木下 秀明(4) 東京大
7月28日	男子三段跳	伊藤 裕也(4) 名古屋大	15m18(+1.5) 木下 秀明(4) 東京大	15m12(+1.4) 中谷 豪汰(4) 大阪大	15m12(+2.0) 藤 悠里(4) 九州大	14m88(+1.8) 吉國 利啓(4) 大阪大	w14m58(+4.3) 伊藤 悠希(4) 京都大	14m40(+1.8) 三神 惇志(3) 京都大	14m05(+0.6) 毛利 冬悟(4) 東京大
7月29日	男子砲丸投	重吉 比呂(4) 大阪大	12m57 楠 哲也(4) 東北大	12m53 長谷川 奨(4) 名古屋大	12m43 八木澤 光大(4) 東京大	11m61 大野 誠尚(1) 東北大	11m59 野村 琢真(4) 東北大	11m35 諏訪 雄山(3) 東京大	11m24 佐竹 俊哉(4) 東京大
7月29日	男子円盤投	大橋 悟(3) 京都大	43m06 楠 哲也(4) 東北大	38m20 諏訪 雄山(3) 九州大	35m67 塚本 健太(1) 北海道大	35m47 佐竹 俊哉(4) 東京大	34m75 横濱 立(4) 北海道大	33m12 松井 そら(3) 京都大	32m59 釜谷 智貴(4) 大阪大
7月28日	男子ハンマー投	三谷 圭(3) 京都大	46m59 大橋 悟(3) 京都大	45m93 横濱 立(4) 北海道大	43m55 野村 琢真(4) 東北大	41m82 野尻 英史(4) 東北大	38m95 立花 悠馬(1) 名古屋大	38m01 多賀 駿介(4) 名古屋大	35m20 藤田 歩(2) 京都大
7月29日	男子やり投	栗林 篤(4) 名古屋大	60m49 澤田 剛(2) 京都大	57m08 野村 琢真(4) 大阪大	56m46 小西 慧樹(1) 大阪大	55m35 楠 哲也(4) 東北大	54m99 中山 奎吾(4) 京都大	53m84 松井 そら(3) 京都大	50m17 釜谷 智貴(4) 大阪大
	フィールド対抗得点	大阪大 38点	京都大 34点	東北大 31点	東京大 29点	北海道大 18点	九州大 10点	東北大 8点	
	対抗総合得点	大阪大 97点	京都大 78点	東北大 66点	東京大 61点	名古屋大 53点	北海道大 44点	九州大 21点	



日付	種目名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位									
7月29日	女子100m 風-2.0	佐貫 有彩(3) 東北大	12.87	内山 咲良(3) 東京大	12.92	佐々木 千歳(4) 東北大	13.05	尾崎 里帆(2) 北海道大	13.29	野尻 真由(2) 大阪大	13.34	小野 萌子(4) 京都大	13.72	谷口 水樹(3) 九州大	13.74	針間 未侑(1) 大阪大	13.77	
7月29日	女子400m	佐貫 有彩(3) 東北大	57.63	野尻 真由(2) 大阪大	58.69	延安 美穂(2) 東北大	58.94	小野 萌子(4) 京都大	59.88	後藤 加奈(3) 京都大	59.89	小川 明音(1) 東北大	1:00.41	大坂 桃子(3) 北海道大	1:02.10	近藤 由梨(2) 名古屋大	1:04.82	
7月29日	女子800m	高石 涼香(4) 東京大	2:16.02	上條 麻奈(3) 東北大	2:16.48	豊澤 みどり(4) 北海道大	2:17.72	西川 真悠(1) 京都大	2:23.94	田中 愛子(1) 大阪大	2:24.25	加藤 ひより(2) 東北大	2:27.68	田川 朋佳(2) 北海道大	2:31.52	大坂 桃子(3) 北海道大	2:32.16	
7月29日	女子3000m	高石 涼香(4) 東京大	10:16.93	三池 瑠衣(3) 大阪大	10:25.60	上條 麻奈(3) 東北大	10:34.91	藤原 ゆか(4) 東京大	10:40.45	飯田 夏生(4) 東北大	10:41.35	田中 里歩(4) 名古屋大	10:45.47	岸 菜々子(2) 北海道大	10:58.70	藤村 柚紀子(4) 九州大	11:00.64	
7月29日	女子4×100mR	東北大 泉屋 咲月(2) 佐貫 有彩(3) 小川 明音(1) 佐々木 千歳(4)	50.04	大阪大学 小川 彩恵(2) 野尻 真由(2) 山崎 真奈(3) 延安 美穂(2)	50.44	東京大学 荒木 玲(4) 谷口 智海(1) 内山 咲良(3) 高石 涼香(4)	52.07	京都大学 花房 袖衣香(2) 小野 萌子(4) 後藤 加奈(3) 中野 水貴(2)	52.39	名古屋大学 徳永 菜津美(2) 森 彩華(1) 近藤 由梨(2) 清水 優香(1)	52.82	北海道大学 OchoaNakaya ClaudiaNoelia(4) 尾崎 里帆(2) 塚越 千弘(4) 原田 和泉(2)	54.61					
	トラック対抗得点	東北大	19点	京都大	14点	東京大	11点	東北大	8点	北海道大	3点	名古屋大 九州大	0点 0点					
7月29日	女子走高跳	中村 真璃子(4) 東北大	1m65	林 玲美(4) 京都大	1m65	内山 咲良(3) 東京大	1m56	福田 早紀(2) 大阪大	1m53	岩本 法子(2) 九州大	1m53	鎌田 友美(1) 名古屋大	1m50	山崎 真奈(3) 大阪大	1m50	花房 袖衣香(2) 京都大	1m35	
7月29日	女子走幅跳	岩本 法子(2) 九州大	w5.73(+3.5)	内山 咲良(3) 東京大	w5.65(+3.7)	原田 和泉(2) 北海道大	w5.50(+2.7)	尾崎 里帆(2) 北海道大	5.47(+1.5)	増谷 優奈(3) 大阪大	w5.19(+3.1)	谷口 水樹(3) 九州大	w5.18(+3.9)	南 早葵(2) 大阪大	w4.71(+5.2)	佐久間 美帆(2) 東北大	w4.54(+3.0)	
7月29日	女子砲丸投	田中 紀香(1) 東北大	10m89	横山 優花(4) 京都大	10m67	神代 結(4) 大阪大	10m11	綿谷 咲良(4) 北海道大	9m87	中野 水貴(2) 京都大	9m86	山崎 香織(1) 東北大	9m43	塚越 千弘(4) 北海道大	9m24	坪野 夏帆(3) 大阪大	7m75	
	フィールド対抗得点	東北大	8点	京都大	6点	東京大	5点	北海道大 九州大	4点 4点	大阪大	3点	名古屋大	0点					
	対抗総合得点	東北大	27点	東京大	19点	大阪大	14点	京都大	9点	北海道大	7点	九州大	3点	名古屋大	0点			

## ◎宮城県陸上競技権選手権大会ほか

七大戦前にも各県の国体予選で部員が活躍しています。入賞した選手を紹介します。

### ・宮城県選手権(7/7~8) …ひとめぼれスタジアム…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	松田 将大(4)	2位	1'55"47
	谷口 尚大(2)	3位	1'56"22
	佐藤 宏夢(4)	4位	1'56"29
男子 10000m	齊藤 寛峻(D3)	4位	32'02"79
男子 110mH	勝井 友樹(4)	7位	15"74(+0.5)
	鈴木 健大(2)	8位	15"77(+0.5)
男子 5000mW	中川 岳士(M1)	1位	21'34"67
	泉 健太(1)	3位	22'06"92
	森 渉(M1)	5位	24'41"19
男子走高跳	山下 一也(4)	1位	2m00
男子棒高跳	高橋 昇之(4)	4位	4m50
	藤井 大輝(4)	7位	4m30
女子 100mH	泉屋 咲月(2)	7位	15"95(-0.1)
女子棒高跳	佐久間 美帆(2)	4位	2m60
女子三段跳	渡邊 朝美(M2)	4位	10m93(0.0)
女子砲丸投	田中 紀香(1)	8位	10m58
女子円盤投	田中 紀香(1)	7位	31m60

### ・青森県選手権(7/6~8) …むつ運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	荒田 啓輔(4)	1位	1'55"46
男子 1500m	荒田 啓輔(4)	1位	4'05"18

### ・岩手県選手権(7/6~8) …北上総合運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 100m	宮崎 幸辰(M2)	1位	10"69(+0.1)
男子 200m	宮崎 幸辰(M2)	1位	21"67(+1.8)

### ・秋田県選手権(7/6~8) …秋田県営陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 3000mSC	田沼 怜(2)	7位	10'01"50
女子 100m	佐貫 有彩(3)	1位	12"36(-1.4)
女子 200m	佐貫 有彩(3)	1位	24"69(-0.6)
女子 400m	佐貫 有彩(3)	1位	56"28

### ・長野県選手権(7/6~8) …松本平広域公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 800m	上條 麻奈(3)	2位	2'14"05
女子 1500m	上條 麻奈(3)	5位	4'42"01

### ・大分県国体最終選考会(7/7) …大分市営陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子やり投げ	山崎 香織(1)	1位	49m16

平成 30 年 8 月 11 日

三秀会会員 各位

三秀会会長 藤田 文夫

七大戦女子二連覇祝勝会のご案内

拝啓

厳しい暑さが続いておりますが、皆様におかれましては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、7月28日、29日に北海道で開催された七大戦におきまして、女子チームが二連覇を達成しました。トラックおよびフィールドのいずれの部門も優勝し、二位の東京大学に8点差をつけての圧勝でした。この現役部員の活躍を祝し、七大戦女子二連覇祝勝会を下記の日程で開催します。皆様、是非お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

敬具

記

七大戦女子二連覇祝勝会

日時：11月11日（日） 16：30～18：30

場所：東北大学片平北門会館（旧北門食堂）1F 「さくらキッチン」

会費：H10年以前卒業OB・OG 7000円\*

H11年以降卒業OB・OG 5000円

※ 会費の一部を女子部員の参加費補助に充てたいと考えております。  
ご了承のほど宜しくお願い致します。

申し込み先：陸上競技部監督 吉田宛

E-mail：masato@riec.tohoku.ac.jp

携帯電話：090-2027-7681

申込期日：2018年11月2日（金）

## ◎OB・OG戦のお知らせ

今年も、OB・OG戦を開催します。

- ・日時 10月20日(土)
- ・場所 評定河原グラウンド
- ・実施競技(予定)

100m、400m、1500m、走高跳、走幅跳、砲丸投、やり投、スウェーデンリレー  
多くのOB・OGの皆様の参加をお待ちしています。

## ◎自己記録更新者一覧

- |                                     |                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| ・男子200m<br>芦田周平(2) 21"57(-2.0)(七大戦) | ・男子3000mSC<br>荒田啓輔(4) 9'56"33(七大戦) |
| ・男子400m<br>八巻隼人(2) 49"85(七大戦)       | 田沼 怜(2) 10'01"50(秋田県選)             |
| 中川岳士(M1) 56"15(七大戦)                 | ・男子5000mW<br>寺島智春(2) 20'55"01(七大戦) |
| ・女子400m<br>小川 明音(1) 1'00"41(七大戦)    | ・男子三段跳<br>佐藤大斗(1) 13m54(+0.1)(七大戦) |
| 柄澤菜々美(2) 1'07"16(七大戦)               | 大坂天心(1) 13m45(+1.4)(七大戦)           |
| ・男子800m<br>松田将大(4) 1'55"47(宮城県選)    | 須郷大地(2) 12m94(+1.1)(七大戦)           |
| 谷口尚大(2) 1'56"22(宮城県選)               | ・男子やり投<br>佐々木玲(1) 46m00(七大戦)       |
| ・男子1500m<br>若林郁夫(3) 4'42"13(七大戦)    | ・女子やり投<br>山崎香織(1) 49m16(大分県国体選考会)  |
| ・女子1500m<br>阿部春花(4) 5'16"92(七大戦)    | 渡邊朝美(M2)32m19(七大戦)                 |

## ◎今後の予定

- |            |                |                      |
|------------|----------------|----------------------|
| ・9月6~9日    | 全日本インカレ        | …等々力陸上競技場(神奈川)       |
| ・9月20~22日  | 国公立27大学対校戦     | …熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉) |
| ・9月24日     | 全日・全女駅伝東北地区選考会 | …北上総合運動公園陸上競技場(岩手)   |
| ・9月29~30日  | 東北地区大学総合体育大会   | …仙台市陸上競技場(宮城)        |
| ・10月8日     | 出雲全日本大学選抜駅伝競走  | …出雲市(島根)             |
| ・10月10~12日 | 東北学生陸上競技選手権大会  | …仙台市陸上競技場(宮城)        |
| ・10月20日    | OB・OG戦         | …評定河原グラウンド           |

## ◎編集後記

今号からOB・OG通信担当となりました、黒須大地と申します。不慣れなところもあるとは思いますが、OB・OGの皆様には東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思っております。1年間よろしくお願いいたします。

七大戦では、女子は二連覇を達成することができました。一方で、男子は総合3位と部の目標であった男女総合優勝は達成できませんでした。嬉しさと悔しさが混ざる状況ではありますが、長距離パートは全日・全女選考会を目標に、他パートは26大戦等の各種大会に向けて練習に励んでいます。主将・鈴木景、女子主将・佐貫有彩のもと、新たな体制で戦っていく東北大選手たちの活躍にご期待・ご声援のほどよろしくお願いいたします。

文責 副務 黒須大地

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu\_tohoku\_ob2sin@yahoo.co.jp